

令和五年度『第七十五回 卒業証書授与式』式辞

式辞

春の日差しにあたたかさを感じる今日の良き日に、晴れの卒業証書授与式を迎えられた第七十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、ご参列をいただきましたご家族の皆さま、卒業証書を受け取るお子さまの立派に成長された姿を見られ、さぞ嬉しく思われていることと存じます。十五年間の子どもたちへの精一杯の愛情が、ここに身を結び、義務教育を修了されたこと、心よりお祝い申し上げます。

さて、昨年五月にコロナウイルス感染症が五類に移行されたことに伴い、この一年はやっと通常の学校生活を送れるようになりました。思い起こせば三年前、一年生の『自然体験学習』は、一年の延期で2年生での実施となり、また、『水泳大会』『合唱コンクール』は、残念ながら中止にせざるを得ない状況でありました。皆さんは、小学校六年生の時から中学校二年生にかけての約三年間、コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、中学校での『宿泊行事』や『体育大会』『文化祭』などの学校行事は、様々な制限がある中ではありましたが、当時の学年の先生方の強い思いと、地域・保護者の方々の理解、また、皆さんと教職員の知恵と工夫・努力により、できる限り中止や規模を縮小することなく実施できたと思っています。

中学三年生になり、コロナウイルス感染症の制限も緩和され、『修学旅行』も無事に実施することができました。皆さんの一回り上の先輩は、バス内でフェースシールドをつけておやつを食べていたことから考えても、コロナの収束で学校生活に自由と明るさが戻ってきたのは確かです。皆さんの『修学旅行』の日程が、六月の梅雨の時期であったこともあり、三日間とも雨の予報ではありましたが、皆さんと教職員の思いを託した巨大なてるてる坊主のおかげで、夜は大雨、昼間はまったく雨は降らず、すべての行程が予定通り行われ、学年主任の“雨男”伝説は拭い去られました。また、コロナの影響で過去三年間実施できなかった『民泊体験』についての感想には、「最初は、とても不安でしたが、民家の方々がとてもフレンドリーに接してくれて、人の優しさや温もりを感じられ本当に楽しい時間を過ごせた」という内容のものが多くあり、様々な素晴らしい出会いがあった『修学旅行』となりました。

昨日、配付された『卒業文集』もすべて読ませていただきましたが、『修学旅行』や『体育大会』『文化祭』などの行事の思い出がたくさん書かれており、私も懐かしく思い出していました。また、友だちについて書かれているものも多くありました。その中には、「私は、学校が好きではなかったが、私がしんどい時も友人がずっと近くにいて話を聞いてくれたり、一緒にふざけてくれたりしたことで、だんだんと学校が楽しいと感じるようになり、今ではとても感謝している。」という内容のものや、「中学校では、勉強も難しくなり、上下の関係も厳しく、早く卒業したいが口癖で逃げ出したいと思っていた私をいつも支えてくれたのが、三年間ともに過ごしてきた友だちだった。私にとって友だち

は、息抜きができる場所だった。いつの間にか、学校に楽しみを求め、今では卒業したくないという気持ちに変わった。」と書かれたものもありました。本当の友だちとは、「たとえ、いつも笑顔で接していても、誰にも話せないことがあるのかもしれない。それに気づいてあげられる人こそ本当の友だちだ。」と思いを綴ってくれた仲間もいます。式典の最後に歌う『卒業の歌』の歌詞にあるような自分自身を支えてくれた友だちへの感謝の気持ちを記したものが多くありました。卒業後の進路先においても、お互いを理解し、支えあえる友だちと出会えることを心より願っています。

さて、二日前の三月十一日は、十三年前に一万八千人を超える犠牲者が出た『東日本大震災』が発生した日です。今年の一月一日には、最大震度七の『能登半島地震』が発生し、津波や家屋の倒壊・火災により二〇〇名を超える犠牲者があり、今もなお、多くの方々が避難生活を強いられています。犠牲となられた方々への「哀悼の意」を表します。皆さんには、今までにも何度かお伝えてしてきたことですが、地震大国の日本では、近い将来、高い確率で『南海トラフ巨大地震』が発生すると言われています。防災・減災のことを学ぶ中で、皆さんのような若い力が、いま生活をしている地域社会にとって必要な人材であることは、『阪神淡路大震災』や『東日本大震災』の教訓からも分かっていることです。自分自身のいのちを守ること、家族・友だち・地域の方々と助け合って、お互いのいのちを守っていくことが、地域社会で生きていくうえで最も大切なことです。

中学校三年間で皆さんは、『いのちの大切さ』について学んできました。世界では、多くの人が傷つき、いのちを脅かされているという報道が毎日のように流れています。戦争は、人間の生きる権利さえも奪うことから「最大の人権侵害である」と言われています。皆さんは、今まで中学校という小さな社会の中で生活をしてきましたが、義務教育を終えれば、一般社会の一員として生きていくことになります。そういう社会の中で、とても気の合う仲間と出会い、とても大好きな人ができ、何事も張り合うライバルがあらわれ、その一方で、まったく馬の合わない考え方の違い、自分にとって苦手な人との出会いも当然あると思います。中学校のような小さな社会でもそうであったように、人には人それぞれの考え方や思いがあることを理解しておく必要があります。それが違いを認め合うということだろうと考えます。人を排除する最たるものが戦争であり、結果として人のいのちを奪ってしまうことになります。お互いの違いを認め合いながら、それぞれの人の持つ良さや能力が十分に発揮できる争いごとのない明るい社会を皆さんには創ってほしいと願っています。

結びに、今日の良き日を迎えるまで、様々な心配をかけながらも、立派に育ててくれた家族の方々への感謝の気持ちを忘れず、また、たくさんの笑顔や思い出をくれた友だちや母校に思いを馳せながら、四月から始まる新しい未来に向かって歩んでくれることを教職員一同、心より願っています。

令和六年三月十一三日

大阪市立北稜中学校長 山咲進一